

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	3092200058
法人名	有限会社 オカヒロ
事業所名	グループホーム ちかの
所在地	〒646-1402 和歌山県田辺市中辺路町近露1358-1 (電話) 0739-65-8500

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成22年1月12日	評価確定日	平成22年3月29日

## 【情報提供票より】(平成21年 1月12日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 5人, 非常勤 6人, 常勤換算 11人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋建造り		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	53,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷金	有( ) 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 100,000 円)	有りの場合 償却の有無	(有) 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,000 円			

### (4) 利用者の概要(11月16日現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1		名	要介護2	3 名	
要介護3	3 名		要介護4	2 名	
要介護5		名	要支援2		名
年齢	平均 86.3 歳	最低 79 歳	最高 93 歳		

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	田辺中央病院、近野診療所
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

紀伊田辺から熊野街道の半ば中辺路にある開設3年目に入るホームで、豊かな自然に恵まれた歴史ある地域の高台に位置しています。「応援者です」と職員が利用者の自立を支援する目標を理念に掲げ、やがて家族はじめ地域も含めた応援団への発展を目線に入れたケアを展開されています。当該ホームは過疎化の状態にある地域ですが、地域の医療機関との連携や、地元の職員が集まり情報が行き交い外食や喫茶店を利用したり、近隣の方々から野菜や柿などの収穫物が届くなど心温まる交流が始まっています。ホームでは利用者の力を出来るだけ活かして行けるよう支援し、手を出し過ぎず職員と利用者が一緒に何かに取り組みお互いの信頼関係を育てているホームです。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で指摘を受けた水分摂取量の記録を、チェックリストを作成し記入しています。また家族会を運営推進会議と共に企画するなど、評価結果をもとに職員間で検討し改善に向けた取り組みが行われています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、前回の評価表をもとに施設長、管理者、リーダーで検討しまとめました。職員には説明し現場からの意見を聴取するとともに、整備検討を行い記録しています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、社会福祉協議会評価委員、民生委員、協力医療機関である診療所医師、町会長、利用者家族の参加を得て2ヶ月に一度行われています。ホームの状況や行事報告を行い、意見を求めたりアドバイスを頂くなど活発な意見交換がなされています。また家族会と合わせた会議であったり、認知症の勉強会を組み込んだり、工夫を重ねて行われています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議時に家族会を行い意見交換ができる機会にしています。今後家族会の回数も増やしてゆきたいと考えています。また、家族の来訪も多く、来られた機会に意見や要望を聞くようにしており、出された意見にはすぐに応え、検討が必要なのは職員間で話し合い運営に反映できるように努めています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣方から野菜や柿などの収穫物の差し入れがあったり、正月には獅子舞が立ち寄ってくれたり地域での顔見知りができ挨拶を交わす方々が増えてきています。地域行事である近野フェスティバルのバザーへの出品や地域マラソンの応援を行うなど地域との交流がなされています。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に職員が意見を出し合って「応援者です」という理念を作成された。「応援者」である事で、手を出し過ぎず利用者の持てる力を引き出す支援を心がけている。応援者は家族へのサポートややがては地域にも広がるようにとの思いを込めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は誰もが見えるリビングに大書して飾られており、入職時には研修の中で理念の成り立ちを伝え理解を促している。またスタッフ同士で検討して作られた理念であり、皆が共有し浸透している。日々のケアで迷った時には理念を振り返りの指針としている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者と共に行動する中で地域で顔見知りや挨拶を交わす方々が増えてきている。近隣から柿や野菜の差し入れがあったり、正月には獅子舞が立ち寄ってくれたりしている。地域行事のマラソンの応援やバザーの出品などを利用者と共にに行い楽しんでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価内容は全職員に回覧し検討の上改善に取り組まれている。今回の自己評価は、前回の評価表を基に施設長、管理者、リーダーでまとめ職員会議で説明し意見を聴取するとともに、整備検討を行い記録している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	社会福祉協議会評議員、民生委員、近露地域自治会長、協力医療機関医師、家族の参加で2ヶ月に1度行われている。家族会や 認知症勉強会と合わせたり工夫をしながら、参加者の意見や地域情報、アドバイスなどのやり取りがある会議となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市との意見交換や相談を行う機会は多く、何かあれば意見や助言をもらうようにしている。市からも連絡が入り意見のやり取りの機会が持たれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会は多く、来訪時には利用者の様子や健康状態等を報告している。遠方の家族や来れない家族に向けては、電話などで連絡するようになっている。金銭管理は立て替え金で行われ、請求書送付時にレシートを返却しに報告している。職員の変更についてはホーム玄関で写真入りの職員紹介で紹介するようになっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時に家族会を行い意見交換ができる機会にしている。また家族の来訪時には出来るだけ意見が聞けるように声かけを行っており、出てきた意見は職員間で検討し運営への反映の機会としている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	未経験者の短期での退職はあるが、職員の退職はほとんどない。管理者は職員面談を半年に一度行い、仕事への努力や効果などをきっちり評価するようになっている。新人の入職に当ってはベテラン職員が付き馴染みの関わりを作るようになっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の習熟度に応じて研修受講を勧めている。定期的ではないが、勉強会を行い、レベルアップの機会になっている。介護技術や事例を通じて自己研磨に繋がるよう助言やアドバイスを行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市で行われる複数事業所連携事業としての合同研修に参加し、関わりの中での交流を心がけている。市内のグループホームとは情報のやり取りを行っているが、系統的な情報交換の機会にはなっていない。	○	立地条件から考えると、他ホームとの交流は難しい部分もあるが、育ちつつあるホーム間の連携を一歩進めて、職員も含めた交流を行うなどネットワーク作りを意識した取り組みが期待されます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	出来るだけ利用者本人の見学を勧め思いの確認をしている。訪問だけでは見えない事もあり、ホームへの見学などで馴染めるかどうか家族とも話し合いを重ねている。入居後には家族の関わりも保ちつつ馴染めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理全般にわたって利用者の知識は高く、職員は多くのアドバイスを得ながら食事作りをしている。畑作業は経験豊かな利用者の声を聞きつつ主な作業は職員が行い、収穫物は料理やぬか漬けにすることで、皆の楽しみ事となり、良い関係が築かれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居に際しては家族から様々な情報を得ながら、意向の把握に努めている。また入居前のケアプランを基に大きな生活のリズムの把握を行い、入居後の状態を職員はよく観察し自身の目で把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランの作成は、暫定プランを作成し、作成に当て課題抽出のための会議を開き、家族の要望や意向と日々の行動や言葉をもとに話し合い計画書が作られている。また医師や看護師の意見も反映して作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランの見直しは、状況の変化がない場合は3～6カ月で行い、状況に変化がある利用者の場合はその都度変更を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近隣のレストランや喫茶店に希望に沿って出かけたが、好みの美容院への送迎も行っているが、今年度はインフルエンザの流行の中で少なくなっている。状況を見て再開の意向である。また、家族の要望で医療への送迎も行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時には利用者や家族の意向を聞き、かかりつけ医が決めている。近くにホームのかかりつけ医があり、月2回の往診や週2回の訪問看護があるとともに、24時間緊急時の対応の体制もあり信頼関係が築かれている。眼科や歯科への往診等は家族の対応が基本となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの方針があり、医療連携を含めた対応指針にのっとりケアが行われている。実際には100歳を越された方や末期のがん疾患の看取りの経験があり、家族や医師との話し合いを深め対応している。職員は医師や看護師の指示に沿ってケアを行い、全職員が方針を共有し対応している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄や入浴時の対応には、大きな声かけや不用意な言葉遣いが無い様に心がけており、万が一そのような事があれば、管理者やリーダーを通じて伝えている。個人情報の記録類は事務所に保管し、古い書類は一括して棚に整理し、日常的な書類も利用者が出入りされても目につかないようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者自身のペースを尊重するように配慮し、食事時間にも声掛けはするが利用者の意志に沿って対応するようにしている。就寝時間の遅い方に対しても、勤務体制を工夫し眠剤に頼らない就寝を援助している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日その日に食材を確認しながら担当者がメニューを決め作っている。利用者の意見や手伝いを組み込み、少しの手伝いであっても出来る事を一緒にしてもらえように工夫をしている。職員と利用者で作った糠漬けなども食卓にあがる事もあり、共に食卓を囲み楽しみの時となっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の要望に応じて入浴支援を行っている。自立入浴の希望者には、様子を見つつチャレンジして頂くなど利用者本位を心がけている。入浴拒否傾向にある利用者には、時間や日を替えるなどしながら対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や洗濯、調理など些細なことでも利用者と職員と一緒にするように心がけ、出来たことが自信に繋がり張り合いが持てるようにしている。農家出身の利用者も多く、畑の草むしりや収穫を楽しんで頂き、漬物を作ったり料理に使用している。また、ちぎり絵など皆で楽しむ機会も作られている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	加齢による機能低下や今期のインフルエンザの流行などで、外出機会は大幅に減っている。そんな中で、毎週の食材購入に何人かの利用者が同行したり、ウッドデッキでの日光浴やすぐ近くの店で喫茶や外食を楽しむ機会を大切にされている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームでは鍵を掛けない事を方針としており、職員の入職時には必ず研修を行い確認しています。利用者の出かけたという思いに応え、見守りや付き添いで応じ、夜間以外は鍵を掛けないケアの実践を継続しています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を行い、1回は消防署の立会いを求めて行われ、利用者が参加しての自主訓練も行われている。高齢者所帯も多い地域がらもあり、地域の協力を得るところまでには至っていないが運営推進会議での報告を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事摂取量や水分摂取量を記録し、利用者の状況によって食事形態に配慮されている。調理師のいる併設のデイサービスの献立を共有して食事が作られており、近隣からの差し入れや、畑で採れた収穫物が食卓をにあがる事もある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木のぬくもりのある腰板がはられ、天井からは2ヶ所の天窓からの光があふれ明るい環境を作っている。出来るだけ季節感が出るように配慮し、壁面の飾り付けが行われている。共用部分には畳のコーナーに昔ながらの家具や人形などが置かれ懐かしい雰囲気を作られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に際して今までの生活の延長と位置付け、馴染みの物の搬入をと声掛けをされている。畳での生活を希望された利用者は畳と布団の生活を継続されており、箆笥や椅子など馴染みの家具や、思い出の写真、癒しの人形などがそれぞれの利用者の居室に飾られている。		